

学校法人内丸学園
盛岡幼稚園

園報

第255号
(12月)
2020

新型コロナウイルス感染に寄せて(2)

学校法人内丸学園 理事長 坂本 洋

新型コロナウイルス感染は、まだ収束の兆し無く拡大の状況です。

当県当市でも飲食店利用等によるクラスター発生もあり、日常生活で感染経路不明、何時だれが感染発症しても不思議ではない状態となっております。このような状況下で私ども認定こども園は、戸惑いながらも出来る細心の注意を払い、不要不急の外出自粛、三密回避の徹底、マスク・手洗い消毒・うがいの励行等を保護者の皆様方のご協力のもとに徹底し開園維持に努めております。

このウイルス感染は、普通の風邪症状で頭痛、発熱、咳、息切れや呼吸困難、時には味覚や臭覚異常ですが、現在のところ、感染し

て風邪症状のみで自然治癒する方80%、後の20%の中で重症化し新型コロナウイルスに移行して入院・集中治療を要すると発表されております。

そんな状況の中で現在ウイルス抗体のワクチンは開発途上ですが、次第にウイルス内容が解明しつつあることから、経済停滞を防ぐCO・TOトラベルやイートのキャンペーンの実施で、不要不急の移動自粛が緩み、感染拡大の原因になっているのではとの指摘もあり賛否両論です。

私どもは第三波発症と言われる現状ですが、当初よりの飛沫感染防止の原点を徹底し、クラスター発症を未然に防ぐことを念頭に、

幼児を受け入れる開園体制を維持することに専念しています。

そのために全職員の問題意識を共有し保護者の皆様にも特段のご協力をいただくことを願い、下記図の意識調査(十月)を全職員実施いたしました検討会を持ちました。

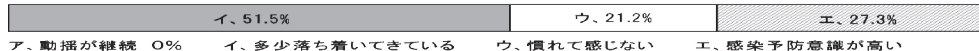
結果の概要として、コロナ禍の園児の動揺は全くありません。むしろ意識高揚が見られます。職員の日常勤務は忙しくなった(15%)、少々忙しい(64%)と感じるも、園児の安心、安定した活動のために使用した遊具・用具の消毒や清掃を普段よりも回数を増やし徹底して原則対応を堅持する姿勢です。保護者の要望等も全員が対応として協力的で感謝しております。

なお、職員の今後の課題意見としてのリモートワークやデジタル化導入については、日常的幼児教育・保育活動への対応は難しい分野ではありますが、これからの対応として教育活動の見直しを含めた検討会の立ち上げ必要性の指摘が多くありました。



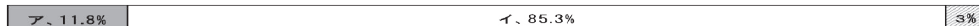
当園職員コロナ禍意識調査

1. コロナ禍に対する子どもたちの変化 (感染予防の手洗い・うがいの習慣化など)



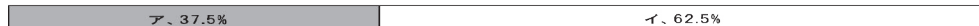
ア、動揺が継続 0% イ、多少落ち着いてきている ウ、慣れて感じない エ、感染予防意識が高い

2. 日常の保育活動に対する影響 (日常の指導計画に支障を感じたか)



ア、影響を感じていない イ、影響を最小限に留意 ウ、指導内容絶対必要

3. 育ってほしい10の姿への影響 (コロナ禍の10の姿への感じる影響)



ア、特に影響なし イ、影響を留意 (健康な体と心、社会生活との関わり、言葉や規範意識の芽生え)

4. 予防対策要望に対する保護者の態度

全面的に協力的で、懐疑的や無関心は全くなし

5. 職員の勤務に対する影響変化 (勤務上に支障を感じる影響)



ア、平常と変わらない イ、とても忙しくなった ウ、少々忙しく感じる エ、多忙で限界 0%

子どもの遊び・生活から

それぞれの育ち

トトロランドより

Aクラス担任 千葉 麻由佳

今年、昨年とは違って子どもたちがより明確にお店のイメージを持ってフードコートや図書館、おもちゃ屋さんなどを開きました。昨年、人気だったお化け屋敷は今年もやりたい子が多く、どんなお化け屋敷にするか相談してお化け作りをしていました。その中で「Cクラスさんは怖いかもじゃないから」と途中で抜けられるようにコースを考えたりもしていました。また、例年は無かった薬局をしないと、マスクや錠剤を作り、薬の飲み方を袋に書いてある姿に、子どもたちが生活の中でよく見ている物・気にしていることが現れているなと思いました。

商品について子どもたちは、「みんなが買えるようにいっぱい作らなきゃ」とそれぞれのお店で一生懸命制作していました。違おう店同士でも作り方を共有し、子どもたちの中で試行錯誤して完成させていました。当日は、実演販売をして宣伝したり、ラッピングのリボンの色を聞いていたり和本物のお店のよう接客する姿や、お化け屋敷で怖いという子と一緒に入ってあげる姿から、一人一人の優しさを感じました。卒園まで、子どもたちと楽しく生活し、それぞれの育ちを支えていきたいと思っています。

いらっしやいませー

Bクラス担任 齋藤 由紀乃

十一月十八日に行われたトトロランド。昨年は、お客さんとして楽しんだ行事ですが、Bクラスになり次はお店やさんにも挑戦☆子ども達から出てきたたくさんのお店の中から、自分のやりたいお店を一つ決めて準備スタート！初めてのお店やさんなので、子ども達がどんなイメージの物を作りたいかを聞き、担任からも材料や作り方を提示して一緒に作っていききました。友達同士で考えたり教え合ったりする姿、じつくり集中して作る姿、「私も手伝う！」と完成したお店は違おう店も手伝う姿などが見られ、Bクラス全員で準備を頑張りました。

準備を頑張りました。

楽しみにしていた当日。机や品物を廊下に運び、看板をつけて準備は完璧。子どもたちの「いらっしやいませー」の声を聞いて来た、初めてのお客さんはいちごクラスさんでした。小さいお客さんにも目線を合わせ、優しく声を掛けていました。店員になりきってお客さんとのやり取りを楽しみ、最後にはほぼ完売！後半は、Aクラスさんのお店での買い物を楽しませてもらいました。

一つ一つじっくり作った品物が売れると嬉しそうな表情で「ありがとうございます」とお客さんとのやり取りを楽しむ中で、Bクラスになりお店やさん側ができる誇らしさもあつたと思います。今年の経験が、来年Aクラスとして取り組む時の力へとつながるはず。来年はどんなお店になるか楽しみです。

楽しかったことを力に…

Cクラス担任 田口 千聖

2学期は、運動会、盛岡城跡公園までの歩き遠足、作品展、トトロランドと、心に残る楽しい行事がたくさんありました。



「おしゃれ屋さんも大繁盛♡」

11月に行われたトトロランドでは、お客さんとして参加したCクラス。前日に出来上がったオバケ屋敷やたくさん品物を見て、期待も大きく膨らんでいました。当日は用意したお買物券を持って、好きなお店へ。あつという間にお買物券がなくなる子もいれば、ホールを何周もしてじっくり品選びをする子、ずっとオバケ屋敷で遊んでいる子、と様々でした。初めは先生と一緒に「これ、ください。」と言っていた子も、優しい店員さんの声かけに、だんだんと自分で話せるようになっていました。この日楽しかったことを思い出し、クラスでもアイス屋さんや、お寿

司屋さん、絵本屋さんなどのごっこ遊びが広がっていました。テールの下にオバケをつるして(3歳児なりの)オバケ屋敷を作って楽しむ姿も見られました。「いらっしやいませ〜」「これ、ください。」「100円です!」「お金わすれました。」「もう売り切れです。」子ども達のかわいい言葉のやりとりを聞き、楽しい行事での経験が、一人一人の成長につながっていることを感じています。そして、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じながら関わるこの時期を、大切に過ごしていきたいと思っています。

保育部三にお店屋さんごっこ!

いちごクラス担任 齊藤 綾

子どもたちの好きな遊びの一つでもあるお店屋さんごっこ。2歳児クラスがお客さんとしてトトロランドに参加したことをきっかけに、今度はお店屋さんになってみよう!と保育部お店屋さんごっこを計画することにしました。ピザやポテト、おにぎりなどの品物をみんなで作り、さらに先生たちの手作りおもちゃを加えてお店屋さんごっこに向けて準備を進めていきました。そして、お店屋



「いらっしやいませ〜!!」

さんごっこ当日。2歳児クラスの子ども達はバンダナを巻いてお店屋さんに変身!元氣いっぱい「いらっしやいませ〜」の声が響き渡りました。0歳児・1歳児クラスはお買い物券とバックを持って先生と一緒に買い物!「どれにしようかな?」と迷いながら買い物する子、袋がいっぱいになるほど買い物している子・・・と様々な姿が見られ、保育部さんみなさんでお店さんのにぎやかな雰囲気を楽しむことができました。お店屋さんごっこの後には子どもたちから「楽しかった」という声があがり、買った品物をお家の方に嬉しそうに見せる姿があったりと子

どもたちにとって楽しいひと時となったことが伝わってきました。今後も保育部の友だち同士が触れ合える機会を作り、楽しんでいけるといいなと思っています。

バケツ稲の生育を通して

栄養教師 伊藤 晶子

例年、食育活動では、子ども達が体験できる食育活動を取り入れています。今年度は、初めての取り組みでバケツ稲の生育をAクラスの子ども達と行いました。

保育部の林崎先生のご協力を得て、先生方には、土づくりから取り組んでもらい、苗植え後も天候、気温、水の量を様々なことに注意を図り生育を進めていきました。手探りの状態でありましたが、秋には、盛岡幼稚園第一号となるバケツ稲から米を育てることができました。Aクラスの活動として取り入れたバケツ稲の生育でしたが、Aクラスのみならず、B・Cクラス、保育部の子ども達も、稲の成長を間近に感じ、収穫を心待ちにしている様子でした。Aクラスは、その後の活動で稲の刈り取り、脱穀、籾摺りを経験し、ようやく育てた稲から玄米に精米すること

ができました。その量、合わせて約0.5合です。大人でも大変なこの作業を子どもたちの力で行うことはとても大変だったと思います。それと同時に収穫されるまで、様々な手間暇がかかっていることをAクラスの子ども達は、今回の活動から経験することができたのではないかと感じます。

玄米は、味噌汁給食の際に白米と混ぜ、以上児のおにぎりにして頂きました。『Aクラスが育てたお米が入っているね。』と、味わって食べている様子を見て、バケツ稲の生育に挑戦してよかったと感じました。



『バケツ稲の収穫』

保護者の方から

確かな成長を感じて

Aクラス 鎌田 忍(晋太郎)

COVID-19 感染防止へ対応しながら、運動会を開催いただき、関係する父兄の皆様、先生方に深く感謝いたします。

息子とともに心待ちにした運動会、秋晴れの中、白く長いはちまきをキリリと結ぶAクラスの子供たちがとても頼もしく見えました。いちごのとき、大勢の前が恥ずかしく、開会式の間、校庭の隅にいた息子は、Aクラスの今、覚えるまで練習したのでしょうか、周りの人を見ずに準備体操をこなし、堂々と小太鼓を叩いています。

障害物競走、マット取りを終え、バルーン。先生の笛の音に合わせて、子供たちは整然と動き、次々とバルーンは美しい多様な形を作っていました。気づくと自然に涙していたのです。こんな素晴らしいことができるようになったんだ。確かな息子の成長を感じ、彼を誇りに思いました。そして、ここまで息子を導いてくださった

先生方に感謝の思いを抱きました。

最後のリレー、スタートの号砲が鳴り、チームの勝利のため、一生懸命歯を食いしばり、全力を傾ける子供たちの姿に、こちらにも本気で声援を送りました。

最初から最後まで温かく幸せな気持ちで参加させていただきました。このような機会を設けてくださり、ありがとうございました。

心が満腹になった作品展

C2クラス 梅木有可(一鳳)

10月末、ハロウィンかぼちゃに出迎えられながら拝見した「うまいもの展」。おでんやラーメン、ピザ、盛岡三大麺など、どのクラスも親しみやすい食べ物を模した作品で溢れていて、子ども達の明るく元気でキラキラしたパワーを全身で感じました。

その中でも私はお寿司が最も印象的でした。それぞれのパックを覗いてみると、1つずつ違うネタを作った子、玉子が2つの子、おいなりさんを入れた子、いくら軍艦を4つ詰めた子など、みんなの好み炸裂!先生方に温かく見守られながら沢山並ぶ具材を前に何をパックに詰ようか、ウキウキと

選ぶ子ども達の姿を想像しました。ただ言われた通りにするのはなく一人一人が考えながら楽しんで作った事が伝わってきました。

このような選択の1つ1つがいつかその子の意思となり、やがて個性へと繋がっていくのだろうなと感じました。そして個性いっぱいのお寿司パックを引き立てるお品書きや和帽子を被るトトロ大将などお寿司屋さん風のディスプレイも雰囲気たっぷり。コロナ禍で外食機会も減る中、園内にさまざまなお店が並び、色んなごちそうを食べた気持ちになりました。個性溢れる元気な作品展をありがとうございました。



「新鮮なネタそろってます...! お持ち帰り限定☆」

編集後記

今年も残すところ僅かとなり、この一年、新型コロナウイルス感染症が幼稚園の生活に大きな影響を与え、安心・安全であるべき子ども達の環境はどうあればいいか、これまでの保育環境や行事等の見直しをすることから始まりました。コロナの影響を子ども達は前向きに受け止め、これまでと違う形で行った行事に対しても純粋にその瞬間を楽しみ、今できることや限られた時間を楽しむ力が見られました。その根底には保育者との信頼関係の構築があったように思います。どんな状況でも力強く乗り越えていく子ども達の姿に逞しさをも覚えしました。来年こそは光に満ちた日々が送れますようにと切に願うばかりです。

学校法人 内丸学園

幼保連携型認定こども園

盛岡幼稚園

〒020-0001

盛岡市中央通一六四七

TEL 六三二二二三〇一

理事長 坂本 洋